

市民の取り組みを紹介

たい肥化容器を使って 生ごみを減らしてみませんか？



密閉型のたい肥化容器を使用した生ごみ処理の事例をご紹介します。

今回ご紹介するのは、能ヶ谷にお住いの神蔵さんが実際に行っている方法です。神蔵家の一日は生ごみ処理から始まります。

みなさんのご自宅の状況に合わせて、参考になるところを取り入れてみませんか？

水を切った生ごみを たい肥化容器に入れます



生ごみを入れたら液肥を取り出し。コックを開けっ放しにして、液肥が出なくなるまでほかの作業をしています。液肥を溜めているのは、お風呂場から払い下げの洗面器です。

たい肥化容器に生ごみを入れる前に、 水切りをします



水切りをするにもひと工夫。寸胴の上にザルとふたを用意。ザルは取手付きがポイント。生ごみに触れなくて済みます。



台所から出た残菜クズをザルに入れておき、水切り用の寸胴・ザルに移します。



寸胴にたまった水は、溜めておいた雨水で希釈してお花に水やり。



「液肥を使ってできたお野菜は、日持ちもするし甘みも増している」とご近所でも評判です。

たい肥化容器に 虫が発生したら・・・



池にいる魚の餌になっています。釣りをする方であれば、釣餌にもできます。夏場であれば、日の当たるところに置いておくことで死滅します。

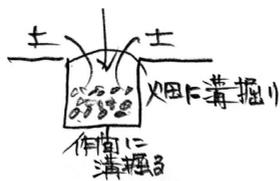
取り出した液肥は・・・



液肥をかけるジョウロにもひと工夫。注ぎ口に棒を挿すことで、狙ったところに適量の液肥がかけられます。

液肥は、ペットボトルに入れて保管。使うときに、溜めておいた雨水で希釈。作物の葉っぱにバンバンかけても葉焼けしないので便利です。ただし、作物の状況によって希釈割合を調整したほうがいいです。慣れるまでは説明書の通りに使しましょう。

出来たたい肥は・・・



作画：神蔵さん

液肥を絞り終え、たい肥化された生ごみ。畑の作間に溝を掘り、その溝にたい肥を入れ土で覆います。次回、この上に苗を定植したり種まきをして、お野菜などを育てます。タヌキなど野生動物がかき回し、掘り起こすこともありますが、土を耕し除草をお手伝いしてくれていると考えています。

家庭用生ごみ処理機の購入費の一部を補助いたします。
補助額：本体購入金額の3/4以内
限度額：20,000円



市民団体の取り組みを紹介



小学校で 出前授業を10年



▲授業でごみの分別を伝える様子。真ん中が代表の黒津さん。(2018年11月15日、町田市立小山田南小学校にて)

活動の歩み

同会代表の黒津一子さんは、10年前に活動の原点となる「ハチドリ」のひとしずくという民話と出会った。燃えていく森に一滴の水を落とし続ける小さな鳥、ハチドリの姿に感銘を受け、「地球温暖化やごみの問題に対し、自分もハチドリのように何か出来ることがあるのではないか」と考えたという。

授業を行うことになったきっかけは、「地球温暖化の子さん(当時小5)の一言だった。『学校でこの番組...』」

この一言を担任の先生に伝えると、「授業をやってみませんか」と提案を受けました。黒津さんの本職は看護師。慣れない授業をやることに不安はあったが、「ハチドリのように、自分のできることを精一杯やろう」と考え、この提案を引き受けた。

市民団体「ハチドリ教室」を伝える会では、市内の小中学校で環境に関する出前授業「ハチドリ教室(※)」を行っている。授業を行うのはママさん達だ。これまでに201回、計7051人の子どもたちに授業を行ってきた。



(左)授業を受けた子ども達から寄せられた感想文。

※「ハチドリ教室」授業では、はじめに民話「ハチドリ」のひとしずくを紙芝居で紹介。地球規模で進む温暖化の問題に触れた後、一人一人が出来ることとして、ごみの減量とその方法を伝えている。

11月15日に小山田南小で行われた授業では、子どもたちから「食べ残しを減らしたい」「買い物にはエコバッグを持っていきたい」などの発言を聞くことができた。

市民の作品を紹介



もったいないこと
しませんりゅう
川柳

ごみを減らそう！



ごみ分別「めんどくさい」を捨ててみる
りょうち

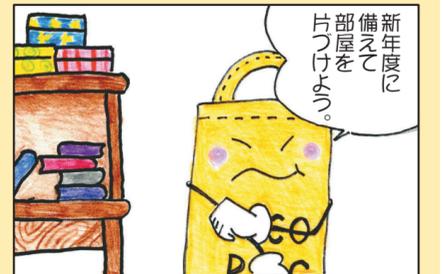
不用品だれかさんには必需品
ねこ母

ごみ減量ごみもメタボもくじけずに
辺羅須三

わが子から逆お下がり派手な服装
匿名

エコバッグちゃんの これってどうなの？ Vol.22

「片づけごみは早めに 計画的に出そう」の巻



説明

年末や年度末は片づけごみが多く出ます。町田市では粗大ごみ以外のごみは直接持ち込むことはできません。

燃やせるごみ・燃やせないごみの日に計画的に出すようにしましょう。

また、片づけで出る雑誌・ダンボール・雑がみ・衣類などは古紙古着の回収日にお出しください。

粗大ごみは、収集依頼も清掃工場への持ち込みも事前予約が必要です。

申し込みは専用ダイヤルをご利用ください。まだエコライフ推進公社☎042-797-1651